



©Yuki Asada

先住民のコーヒーをめしあがれ

マヤ民族をはじめ、古くから多くの先住民が暮らすメキシコのチアパス州。標高約1,200メートル、朝晩の寒暖の差が激しい高地では、辺り一面、12月から3月ごろになると、たわわに赤い実がなるコーヒーの木を目にすることができる。

この土地の人々の生活にコーヒー栽培は欠かせない。なぜなら、彼らの現金収入の7割以上を占めるのがコーヒーだから。地域で唯一ともいえる商品作物なのだ。

しかし1ヘクタール当たりの平均収穫量は少なく、一世帯当たりの収入は1日2ドル以下。電気・ガス・水道が通っていない村も多く、栽培用に新たに開拓できる土地もほとんどなかった。

そこで立ち上がったのが、メキシコの地域研究を専門とする慶應義塾大学の山本純一教授と現地のマヤビニック生産組合。JICAとの連携の下、コーヒーの栽培や焙煎技術の向上に地道に取り組み、日本にまで販路を広げること成功した。

さらに、収穫時期にかかわらず、一年を通じて安定した収入が得られるよう、組合直営のカフェをオープン。観光客などでにぎわっている。

マヤビニックのコーヒーは豊かな香りと甘みのある後味が特徴。1日の始まりと終わりに、休憩時間に、ホッとできる空間を作り出してくれる。



チアパス州にオープンしたカフェ。地元の人々の雇用促進にもつながっている

★ドリップバックを5人、レギュラーコーヒーを3人にプレゼント!→詳細は38ページへ

※株式会社豆乃木 (www.mvcoffee.net/) を通じて購入可能

